

11月1日

サヨナラ原発福井ネットワーク

連絡先・越前市入谷町熊の手 山崎方

TEL 090-6271-8771 mail: kumanote@gh.ttn.ne.jp

郵便振替口座: 00780-9-40314



日本列島は半世紀の間、地震の活動期。一刻の猶予も許されない脱原発

山崎隆敏

小浜市議会は、国への意見書の中で「30年を超えた原発は廃炉に」と訴えています。脱原発の最初のステップとして私は(個人的に)これを支持します。30年の根拠は、米国ウエスティングハウス社は、耐用年数を30年として設計しているからです。若狭にある関電の原発7基はすでに耐用年数を超えています。

残念ながら越前市議会の意見書では「高経年化した原発」と曖昧に書いているため、市議の一部や越前市を選挙区にする県議は、したり顔で「40年超の原発を廃炉に」などと主張しています。巨大地震の起こる可能性の高い敦賀若狭で「原発震災」が迫る中、私たちに残された時間はありません。能天気な議員たちを叱咤するのは私たち市民の役割です。

さて、八月に成立した再生可能エネルギー促進法は、肝心の価格と期間が未定で方向が見えていません。固定価格での全量買取が電力会社に義務付けられなければ意味がないのです。9電力が送電網を独占している体制のままでは、再生可能エネルギーは促進されません。パーバ法を制定した33年前に米国がそうであったように、電力が完全自由化されれば、日本でも新規の原発は建設されなくなるでしょう。

田中優氏は「日本の電力会社は、周辺業界(政治家も)を儲けさせることで業界に君臨している。この仕組みを変えない限り、運動で老朽原発を少しは止められても、原発推進の体勢は変わらないだろう」と憂慮しています。私も同感です。なぜなら「発送電分離」「総括原価方式」など電力独占の仕組みを変える実効的手段が私たちに無いからです。民意を反映させる仕組みを持たぬ日本は、飯田哲也氏が言うように、まさに「みせかけの民主主義・先進国」なのです。(「世界十一月号」)



フクシマと共に9.11パレード福井

約250人の方が参加して、福井のまちなかをパレードしました

たとえば、原子力政策大綱について議論する原子力委員会の新大綱策定会議の委員28人のうち、脱原発派はわずかに4名です。また、エネルギー基本計画は、総合資源エネルギー調査会(経産大臣の諮問機関)の下の基本問題委員会で議論されますが、委員25人のうち3分の2は推進派です。福井新聞は、「反対と推進の二項対立は不毛」などと揶揄していますが、彼らは現実を見ていません。反対派はエネルギー政策の決定過程に形式的にしか参画できません。異見は聞き置かれるだけののです。ただ、私たちに希望があるとすれば、国民世論の80%が脱原発を願っていることです。

「哲学的・倫理的な規範性も言葉も持たない日本の政治的リアリスト(権力を持つ)たち」は、フクシマの後も原子力必要論を唱えています。しかし、先進国では原発が減っていくことは避けられない事実です。「多数派を占める経済合理主義で現実主義の人々(環境主義の立場ではないが)」を仲間にして、妄想的な原発推進の政治的リアリストたちを少数派に追い込むことが鍵となるでしょう。例えば、日本の電気料金が世界一高くなった(現在も高水準)のは、原発建設に注力し過ぎた結果です。それを苦々しく思う産業界の人たちもいます。広範な人々と連携して原発を止めてゆきたいものです。(「内は飯田哲也氏」)

自治体に安全協定を締結させよう!

政府が定める予定のEPZ(防災対策重点地域)の範囲(30km圏内)の自治体と議会に、原発の運転に当該自治体の同意を必要とする「安全協定」を電力会社と締結するよう求める、要請行動を行うことを私は提案したいと思えます。議会に原発問題特別委員会を設置することも求めます。米国では、隣州が原発の運転に同意しなかったため、完成しながら一度も運転できずに廃炉になった例もあるのです。それが、住民を守る自治体の役割(自治)なのです。

また、ヨウ素剤を配備する計画の50km圏内の自治体に対しても、ヨウ素剤を家庭配備するよう要請したいと考えます。

崎山比早子講演会を開催

中嶋多恵子



崎山比早子さん（医学博士・元放医研主任研究官・高木学校）の講演会「放射線被害を正しく知るために」を福井市と越前市で九月二十三・二十四日に開催しました。

講演は、日本人の医療被曝は世界1位で、そのために痛になる人が1年間で1万人もいるという話から始まりました。「放射線が1ミリシーベルト被曝するとは、全身の細胞の核に、平均して1本の放射線が通ること。その時、細胞の核にあるDNAを傷つけるため、細胞分裂が盛んな子どもは大人の何倍も放射線の感受性が高く、障害がやすいこと。放射線に安全量が無いことは国際的な合意事項です」と話されました。

「しきい値がない」から、医療被曝でも原発事故でも放射線を受けないほうが良い、ということになります。三月十一日以降、「放射能は基準値以下だから大丈夫」というアナウンスがしきりに流されましたが、それを信じていたら被曝してしまいます。（注：しきい値とは、それ以下であれば安全という基準値）

「チェルノブイリ原発事故で被曝した子ども達に、4年目から甲状腺癌が増加し、大人になった今も発症している。汚染地に住む子どもの体には、汚染濃度に比例して放射能が蓄積しており、癌だけではなく、呼吸器・消化器疾患、免疫低下、心臓病、高血圧、低血圧、糖尿病、白内障など、いわゆる成人病が幾つも併発している」と話されました。

福島は、チェルノブイリで強制移住させられた地域と同程度に汚染されましたが、 50000 （放射能予想システム）の結果が公表されず、なぜかヨウ素剤服用の指示も出されませんでした。

ヨウ素剤は（表を参照）、放射能に曝される24時間前

ヨウ素剤の効果と配布基準・場所

- ヨウ素剤はいつ飲むのが効果的？
放射能ヨウ素が取り込まれる24時間前から同時
2時間後では 93% 阻止
8時間以降 80% 阻止
24時間後 40% 阻止
7% 阻止
- 配布基準
等価線量が100mSvになると予測されたとき
（大気中に放射性ヨウ素が4,200ベクレル/m³の時24時間その空気を吸い続けられれば100mSvになる）
- 現在決められている配布場所
避難所

各国のヨウ素剤配布方法と備蓄

国	服用対象・指標	配布方法	備蓄
ドイツ	0-45才 50mSv	事前及び事後	5km以内 家庭に配布 5-10km 学校、病院、職場
イギリス	全年齢 100mSv	事後	
オーストラリア	0-16才 50mSv	事前又は事後	家庭、学校、幼稚園
フランス	全年齢 100mSv	事前	5km以内 家庭配布 学校 5-10km 学校、保育所等
ベルギー	0-19才 妊婦・授乳婦 50mSv 20-45才 100mSv	事前	5km以内 家庭配布 10-20km 希望で家庭配布 20-30km 学校等に備蓄
アメリカ	0-18才 100mSv 18-45才 50mSv	州レベルで決定	州レベルで決定

ぐに服用できるように「原発から5km以内の全家庭や学校に配布しているフランス、ドイツ、ベルギーなどと同じにするべき」と話されました。

崎山さんの話を聞き、改めて私達の政府は誰の為にあるのだろうかと思えました。SPEEDIは110億円もの税金が投入されています。そのSPEEDIで高汚染地域と分かっていたのに、その事実を住民に知らせず、むざむざ

から飲めば、放射性ヨウ素を93%防げます。被曝の2時間後でも80%防げますが、24時間後では効果は7%に落ちてしまいます。ヨウ素剤は、迅速に服用させなければならぬということですが、ヨウ素剤は避難所に保管されています。避難の大混乱の中で制限時間までに、避難所までたどり着けるか疑問です。最近、防災計画で避難範囲が30kmに拡大されたので、尚更、避難の大渋滞が予想されます。地震で道路や橋が壊れると避難所に向かうことすらできないかもしれません。

スウさんのおはなし会を開催

五十嵐靖子



「あなたのままで、いのちがやいてる。スウさんの歌でおはなし会は終わった。」

会場に流れる清らかな風、それなのに、心の中は真綿に包まれたような温かさ。なぜ？私だけ？私だけではなかった。会場内では、涙を拭いている人もいる。

この講演会は「3・11後に想う・子育てどいのちの未来」のタイトルで十月十六日に開催した。子育て中の方に来てほしいという思いで、託児も無料にしたところ、希望者は6名で子どもは10名でした。

当日の参加者は100名でした。アンケートには、皆さん積極的に記入して下さいました。

以下は集計の報告とします。回答者47名。①とても参考になった、36名。参考になった、11名。とパーフェクト回答。②やや難しかった、4名。ちょうど良かった、40名。その他に大変わかりやすく、心に届

きました。等の記述があった。⑥の今後希望する講演会等の回答には、具体的には、映画上映「ミツパチの羽音と地球の回転」3名、スウさんのお話し、3名、武田邦彦氏、1名の希望があった。他には、心が温かくなる話。脱原発色が濃くなくわかりやすい講演会。子育てや原発に代わる新エネルギーの話。会場は小さめの会場でと、越前市内でとの希望があった。

⑦の感想や意見には40名の方が詳しく書いて下さった。主なものを抜粋しました。

とてもわかりやすく心に響いた。やさしい気持ちになった。「あなたはあなたでいい」と子育て中の親を支援する仕事に生かしたい。命の側にたった情報は参考になった。マスコミの情報しか知らないの、来て良かった。一番大切なのは命なので、doとbeの話が心に残りました。原発だけでなく心の話と原発とで切り口が違ってよかった。原発とコミュニケーションは別物と思っていたが、おおもとは一つと今日みごとに融合された。命と原発は共存できない。自分の命は人に任せられない。他に沢山の感想がありました。



※ブクシマと共に9.11パレード福井」に寄せられたメッセージ。パレードの前に読み上げられました。

福井に住む、「脱原発」を行動されたみなさまへ

南相馬市小高区からの避難者 田中徳雲

私が住んでいたところは原発から十七キロ。あの日以来、生活のすべてが根底から変わりました。全く今までの人生が夢を見せられていたみたいです。それを体験した多くの方は希望を失いかけています。それぐらい精神的にもしんどいのが放射能汚染です。

光陰矢の如し、早いものであの震災から半年が過ぎようとしています。宮城県や岩手県では大変な中にも人々の想い、地域の絆が再確認されて復興に勢いがついているようです。同じ被災地でも私たちは置かれている状況が違います。

未だに毎日新鮮な放射能が出続けているこの状況に変わりはなく、国や県は水や食料の安全基準値を諸外国に比べて五〇〇倍も上げて、基準値以下なので安全だと言います。私たちの身体は外国の方と比べて五〇〇倍放射能に強いとも言えるのでしょうか。しかも食べ物も飲み物も基準値以下だと「検出せず」という表記をしています。これは嘘です。

子供を守れない社会に未来はないと思います。子供は未来の光、私たちみんなの宝物だからです。私は今回、身にしみてそんなことを考えています。基準値を外国よりも厳しく設定して、それ以下だから本当に大丈夫というのが信頼できるやり方、外国からも認められるやり方ではないでしょうか。

原発も基地も武器も、もういらない。

先日、ご縁をいただき沖繩のおじいちゃん、おばあちゃんたちと話す機会がありました。「沖繩には六十六年経ってもまだ基地があるさあ。どうして分かるかい……？」

みんなが本気になって声を上げてこなかったからさ……。行動してこなかった人……。行動してこなかったからさ……。行動してきた人もいたけど、多くの人は人まかせだった、無関心の人もいた……。その結果が今の世の中なんだ。頭の中では考えていても、発言したり行動したりしなきゃ、考えてないのとなにも変わらないんだよね。」

八月の世論調査では、国民の八十五パーセントが「脱原発」を望んでいる。しかし、地方の議会は「脱原発」路線ではない。

地元がだめと言えはだめなのが原発。県や国は地元の見解を尊重する。私たちの思い、苦しみ、希望をもっと届けてゆこうではないか……。

原発と基地と武器(暴力的な金儲け)が無くなれば、後には希望が残る。

私はそんな未来を子供たちに残してやりたい。それが大人たちのために故郷を失った子供たちにできる、最大の罪滅ぼしだと思っています。

みなさん、今こそ力を合わせましょう。私はできると信じています。



「9.19さよなら原発集会に参加して」

敦賀 K.Tさん

ブクシマと共に9.11パレード福井」集会に参加後の交流会で、今度東京で行われる「9.19さよなら原発集会」に自費でも参加したいと思っていると話をさせてもらったところ、心温まるカンパをいただき、旅費の助けにさせていただきます。

福井から参加した民主団体の人達と一緒に行動させてもらったのですが、とにかく最寄の駅も、会場周辺も、もちろん会場も、人、人、人であふれかえり、集会の様子も木立の合い間から少し見られたくらいでしたが、それでも集会の熱気は伝わってきました。

パレードもなかなか順番が来ず、電車の時刻に間に合わないという事で参加出来ず残念でしたが、帰る人がいる一方、公園めざして人波が続く様子は、私が経験した今までの集会ではなかった光景で胸が熱くなりました。思想、信条を超えて「脱原発」の一致点でつながっていけば、必ず「脱原発」の方に舵をきっていきけると思いを強くしました。

又、今舵をきっていかねければ「福島」と同じような事故がいつどこで起こってもおかしくありません。日本の子供達の為に、これから生まれてくる子供達の為に、大人ができることから、まず一歩を踏み出し意思表示をし

ていくことが大切だと思います。
私も微力ですが歩みをすすめていきたいと思っています。

お知らせ

【映画】

◎ドキュメンタリー「チェルノブイリハート」
十一月十二日～二十五日
会場：メトロ劇場（0776-22-1772）



【学習会&運営委員会】

「サヨナラ原発福井ネットワーク学習会&運営委員会」
十一月二十日（日）学習会：午後1時30分～/運営委
員会：学習会終了後

会場：東別院研修室/福井市花月1丁目2-36

◎内部被ばく・学校給食の汚染に関する資料配布

◎運営委員会は、会員であれば誰でも参加可

【集会・ワークショップなど】

「2011もんじゅを廃炉へ！全国集会」

十二月三日（土）

・抗議集会と原子力機構申し入れ/白木海岸/午前11時

・講演会/敦賀プラザ万象/午後1時30分

・講演会/敦賀プラザ万象/午後1時30分

佐藤栄佐久（前福島県知事）海渡雄一（もんじゅ訴訟団弁
護士）小林圭二（元京大原子炉実験所講師）

・市中行進/プラザ万象/敦賀駅前/午後3時30分

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

およびシンポジウム「大野から見た若狭・福島」

十二月十八日（日）

会場：大野市学びの里「めいりん」

午後1時30分/映画上映昼の部/午後4時/シンポジウム「大か
ら見た若狭・福島」若狭の民俗学者：金田久璋、明通寺：中島哲演

詩人：正津勉（大野出身）/午後6時30分/映画上映夜の部
◎シンポジウムは昼の部、夜の部ともに参加自由
◎入場料：1,000円（制作グループ現代の規制事項です）
高校生以下は無料

山崎氏を講師に、環境アドバイザーの井上氏が、これからの
エネルギー問題を考えるワークショップを開催します。

お二人による「福井から世界からみた原発」のミニ講演会
+質疑応答後、10名程度のグループにて、あなたの意見、疑問
質問など、共に語り合います！

十二月十八日（日）ワークショップについて

私（井上）はグローバル・エコを市民大学等で教えてきました。
世界的な視野から環境問題を考える必要性を主張してきました。
その中には、エネルギー問題も含まれ、原発の危険性や各国の
市民活動を紹介し、地域の人たちに声を上げることをお願いし
てきました。山崎さんに相談し、市民レベルでエネルギー問題
の意見交換をする場を作ろうとなったのでした。

賛同して下さる方がいましたら、ぜひ参加お願いします。

【申し込み】Eメール：xndmhb63@ybb.ne.jp

TEL：0990-13949114 井上義一

【申し込み締め切り】十二月五日

【開催日時】十二月十八日（日）午前9時30分～12時00分

【開催場所】福井市研修センター/福井市文京6丁目8-

18/TEL 0776-21-1120

【定員】30名【会費】500円

「原子力・エネルギーの安全とあり方を真剣に考える会」

主催の「勉強会」のご案内

若泉征三衆議院議員の秘書と、日本原電の社員で敦賀市議の
北条氏と私（山崎）の三人で「勉強会」の構想を打ち合わ
せました。

「原発を廃止した後、立地自治体の住民も、同じ福井県民

として共に繁栄してほしいと私たち反原発派も願っている。ポスト
原発の地域振興というテーマでお互いに語り合いたい」と伝えました。
初めてのことで、方々が納得できる内容になるかどうか保障はできま
せんが、ご了承下さい。全体で7回ほどの「勉強会」になり、会費は三、
〇〇〇円ですが、私の紹介者に限り一回ごと五〇〇〇円の参加費でもよい
ことになりました。会場受付の山崎までお申し出下さい。

第1回/十一月二十三日（水）確定 会場：JR武生駅前
の越前市福祉健康センター

講師：松浦祥次郎……元原子力安全委員会委員長。日本
の原子力草創期からの科学者。原子力事故が多大な被害
をもたらした事を真摯に国民に陳謝している。

①日本への原子力発電の導入の経緯、原子力のしくみ②原子力安全
確保策、その問題点及び今後必要なもの（技術面、社会面、思想面）

第2回/十二月十七日（土）確定

講師：阿部清治……原子力学会原子力安全部会長。元原
子力安全・保安院審議官、リスク評価が専門。

①福島原発事故の状況・原因・今後必要な安全対策、安
全規制の問題点。②リスク評価からみた「原子力」

第3回/一月十四日（土）確定

講師：大島堅一……立命館大学教授。原子力コストの第一人者

①電源特会よりエネルギー特会の概要②核燃料サイクルの概
要と問題点③放射性廃棄物の保管、貯蔵、処理処分計画の計画

の概要と問題点④原子力及び他の電源とのコスト比較

第4回/二月中旬で調整中、講演自体は了承

講師：飯田哲也……環境エネルギー政策研究所所長。自
然エネルギーの第一人者

①世界及び日本の再生可能エネルギーの普及の経緯と現状、将来予測
問題点②発送配電分離と電力自由化③エネルギー政策の決定過程

山崎隆敏著 小冊子「福井の原発 これまでとこれ
から」32ページ2,000円がとても分かり易いと
好評です。ぜひお求めください。問い合わせは山崎迄

